



札私幼

《編集》
札私幼広報委員会

《発行責任者》
一般社団法人
札幌市私立幼稚園連合会
藪 淳一

札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10
札幌市生涯学習総合センター内
☎ 671-3590 FAX 671-3591

第 170 号

令和3年
12月24日
発行

第 63 回 北海道私立幼稚園教育研究大会札幌ブロック大会・ 第 52 回 札幌市私立幼稚園教育研究大会が開催

令和3年9月25日(土)午前9時30分から、「新しい時代をのびやかに生きる～社会に開かれた質の高い幼児教育を～」というテーマのもと、第63回北海道私立幼稚園教育研究大会札幌ブロック大会ならびに第52回札幌市私立幼稚園教育研究大会が開催され、参加者はYouTubeライブ配信でオンライン視聴となりました。令和3年度は公開保育は行わず、全体会のみの実施となりました。



開会式では、大会長の藪 淳一札私幼会長から挨拶があり、新型コロナウイルス対策のため1日目の公開保育を中止したこと、2日目の全体会をオンライン実施することになった経緯が説明され、今の子ども達はどのような力を育てていけばいいのか、私達はどのような専門性を高めていけばいいのか、今日の基調講演から個々の答えを見つけ出してほしい、という言葉がありました。



基調講演では、「新しい時代の乳幼児教育を考える～保育専門職の独自性と重要性を中心に～」と題して、神戸大学大学院人間発達環境学研究所人間発達専攻准教授・北野 幸子先生よりご講演をいただきました。



子どもの幸せは自己の自尊感情の高さと強く結びついており、精神的な健康(ウェルビーイング)をどう保障していくかが基本となること。コロナ禍において子どもたちや家庭を支えるには、園や先生が専門家としてなにをどこまで許容していくかが大切であること。持続可能な世界に向かうためのSDGsにおいても幼児教育は大きく取り上げられており、乳幼児教育に携わる人は非常に重要な仕事をしていると胸を張ってほしいことなどのお話をはじめ、多岐にわたる乳幼児教育の最新の動向をお話していただきました。



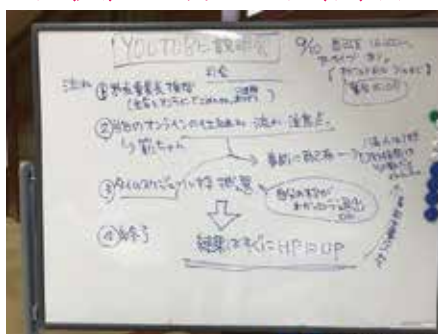
今年度はオンライン開催となりましたが、それぞれに気になるトピックがあったことと思います。この学びを起点に、子どもたちへの教育環境や、私達の協力し合う姿など、さらなる日々の保育の充実と幼児教育の発展に活かしていきたいと思っております。



札私幼就職フェア【ミライトビラ2021】 in Zoom

今年で8回目を迎える札私幼就職フェア【ミライトビラ】学生と直接話をするのでお互いにミスマッチなく採用につなげることが出来る機会になりつつありましたが、昨年と今年は新型コロナウイルス感染防止により、開催にも影響が出たのは言うまでもありません。昨年度は感染も少し落ち着いた時期と重なり、何とか【対面】での開催が出来ました。今年も当初は対面開催で話を進めておりましたが、夏休みを境に感染が広がり緊急事態宣言が発令されるとの予想が出始めたことにより事態が変わり始めました。養成校サイドからも緊急事態宣言が発令された場合は、対面形式のフェアに学生を出すことは難しいなど開催自体をどのようにしたら良いのか委員会内で振り出しに戻ることになりました。オンラインでの開催を決めましたが、何をどのように進めれば良いのか・・・そこから始まりました。最終的に配信方法も参加園に急遽アンケートをお願いするなどして方向性を見出しました。オンライン(Z o o m)開催に変更したのがフェアのひと月前。ここからは出来る限りの対応で進めるしかありませんでした。

★準備段階の様子・8月24日(火)～9月19日(日)★



会場下見のやり直しやYouTubeでの説明会など課題を一つひとつクリアしながら当日を迎えましたが、開催するにあたり参加学生がいるのか？どこまで周知されているのか？正直【不安】しかない状態で当日を迎えました。開催するにあたりご協力いただいた振興委員の先生はじめ、参加園の皆様のおかげで無事に終わることが出来たと思っております。実際にオンラインで開催したことで見えた課題や反省を委員会内でも出し合い、それを今後に生かせるよう取りまとめています。終了後のアンケートにもご協力いただきありがとうございました。結果については既に会員園にメールで送らせていただいております。そちらで確認をお願い致します。就職フェアに関し数々のご協力いただきましたこと、改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

★当日の様子・9月20日(月・祝) / ホテル札幌ガーデンパレス★



札幌市幼稚園初任段階における研修・認定こども園新規採用教員研修 理論・実践 1

1年次の先生を対象とした初任者研修が新型コロナウイルスの感染対策を踏まえ、7月27日・28日に分散してかでの2・7で行われました。研究委員会では今年度から新たにキャリア・デザイン研修を開始し、そのうち1年次から3年次までを初任段階における研修に位置づけています。今年度の1年次研修は4日間予定されており、1・2回目は動画配信で行われ、今回初めて対面での研修となりました。

まず初めに、「先輩の先生から学ぶ」という事で、2～3年目の先生方に1年目を振り返り、現在の自分の仕事に対する考え方との変化や同僚の先生方とのコミュニケーション、保護者との関わり等様々な視点でお話して頂き、その後グループ討議を行いました。

グループ討議では、この4か月を振り返って保育についてはもちろんの事、社会人としての戸惑いや課題、今後の目標について語り合い、他者と気持ちを共有し、共感しあう中で、2学期に向けて前向きな気持ちになった先生も多かったようです。

午後からは、「子どもの見方、関わり方と指導計画の作成」について、子どもの遊びの場面や発達段階を踏まえて保育を計画する事について、演習形式で学びを深めていました。写真という切り取られた場面から、子どもの心情を理解する事は難しい事ですがどの先生も真剣に考え、それを活かそうとする姿が伺え、「子ども理解」の重要性をきちんと理解していると感じました。

研修内容

①先輩から学ぶ・1学期の振り返りと今後の展望
7/27

コーディネーター

あゆみ第二幼稚園 園長 花香美千留先生

発表者

認定こども園新さっぽろ幼稚園・保育園 山岸 陽美先生

幼保連携型認定こども園ほしおきガーデン星の子幼稚園

山田 実咲先生

7/28

コーディネーター

認定こども園大谷オアシス保育園

園長 中里 泰子先生

発表者

菊水いちい認定こども園 田中賢太郎先生

西野桜幼稚園 若澤 桃花先生

グループ討議

②子どもの見方、関わり方と指導計画の作成

講師 札幌市幼児教育センター 幼児教育企画・研修担当係長

指導主事・宮崎 野歩先生



札幌市幼稚園初任段階における研修・認定こども園新規採用教員研修 理論・実践 3 ～ 保育の展開を考えよう (2年次研修) ～

幼稚園教諭・保育教諭になって2年目を迎えた先生達を対象にした研修会を令和3年8月5日(木)に対面で開催しました。コロナ感染対策として午前と午後の2回に分け区別での分散開催で行いました。

★午前参加者 → 中央区・東区・豊平区・南区・手稲区 (80名)

★午後参加者 → 北区・白石区・厚別区・清田区・西区 (72名)

【保育の展開を考えよう】のテーマで講師に札幌国際大学人文学部心理学科 准教授・木村 彰子先生をお招きして研修を行いました。木村先生自身の2年目で経験したことやエピソードを交えながら研修がスタートしました。主に下記の3点を中心にそれぞれに大切なことは何かを分かりやすくご指導いただきました。

① 日常の保育を記録することの大切さや記録の方法「子どもをみる」ことから始める。

何をみるか。どのような思いでみるか。→それが【記録】に直結する。

★大事なことをしっかり見ることが出来ると良い記録を書ける。何となく表面的な見方をしていると○○した…と言う表面的な記録しか書けない。

② 記録をもとにした育ちの読み取りと指導計画のかかわり

ただ○○をしていた…と言う記録では次にどのような援助が必要か、どのような環境構成が必要か見え

てこない。

★具体的な【みとり】と【反省】【考察】をすることで次の計画につなげていく。好きな遊びの時間も含めて【ねらい】をしっかりと持っているのか。

③ 学級や園の教育をどのように保護者(家庭)や地域に伝えるか。

「保護者が求めていること」と「ねらい」をしっかりと持って記録すること。

★どのように園で過ごしているのか、友達とどう過ごしているのか、どんなふうに我が子が育っているのか知りたい。そのためには「○○遊びをしていた」という見方ではなくその遊びを通して【どんな経験や育ちがあるのか】これを見ること。そして【記録】をしておくことが重要。これにより保護者との連携(関係)も変わってくる。



政令指定都市私立幼稚園団体協議会 第19回 次世代研修会 大阪大会

8月19日(木)に政令指定都市私立幼稚園団体協議会・次世代研修会が、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、初めてZOOMによるリモート形式での開催となりました。「みんなが“わ”になるプロジェクト」<輪・和・話・笑・環・ワッ!>を主題に、大阪私学会館をメイン会場とし、大阪市私立幼稚園連合会の先生方が中心となって、中継で結ばれた全国各地の多くの先生方が参加されていました。

研修Ⅰは、講師に(有)ソウルメイト代表取締役/茶原忠督氏を迎え、「園内チームビルディング～関係の質を高め、強しなやかな園に～」をテーマにお話を聞きました。茶原氏は転校ばかりだったという幼少期の経験や、スノーボード日本トップの世界で培った有名なものもありましたが、今回、初めて目にするものもたくさんあり、絵を最初に見た瞬間二つのものが浮かび上がるように見えてくる場合もあれば、一つのものにしか見えず頭を捻っても分からず…茶原氏からのヒントを聞くことで見る事ができた場合もありました。見方を変えることで、全く違うものになるということを実際に感じる事ができました。中盤からはブレイクアウトルーム機能を活用し、4～5名に分かれてゲーム遊びを行ないました。最初は、「セブンジャンケン」という「ジャンケン ポン」の掛け声に合わせて指を出し、全員の出した指の合計を7にするという遊びでした。同じグループのメンバーで1分間に何度も繰り返すし、できるだけ多く「7」にすることができるよう挑戦します。さらに、「今から“と”がつく県名を一つの付箋に一つできるだけたくさん書いて下さい」と言われ、私はその時、3つしか思いつきませんでした。その後、ブレイクアウトルームごとに意見を出し合い、5つの県全てが分かりました。茶原氏が用意して下さったゲーム遊びを通して、人間の脳は意識していることにフォーカスしていること、チームとしては、リーダーシップ、フォローシップ共にどちらのタイプの人も必要であること、一人よりもチーム(複数)で意見を出し合う方が

成果も大きいことに気付かされました。

研修Ⅱは、講師に青木幸将氏をお迎えし、「ICTってどうしてる？」をテーマに話し合いを行ないました。青木氏は、日本初の会議ファシリテーター専門事務所代表を務め、オンライン会議ファシリテーターとして全国で活躍されている方で、講義の冒頭でオンライン研修に参加する時のポイントは、「反応を豊かにすること！」と教えて頂き、「ICTってどうしてる？」をテーマに、6人の先生方がICTにまつわる話題提供についてプレゼンテーションを行いました。①幅広く色々やってみた ②気になっているけど…、実践できない悩み ③ICTの活用と保育場面でのアナログの良さ ④園内SNSで情報共有 ⑤園内外で使えるツール ⑥ICTで可視化 以上の6つの内容でした。私たち参加者は、各自が興味を持った内容のグループ(ブレイクアウトルーム)へと移動し、プレゼンテーションを行なった先生を中心に、意見交換を行ないました。私は③グループに加わり、保育の場面においてアナログであることの良さや意義とICT活用の見極めについて、同じグループになった先生方と意見交換を行ないました。

コロナ禍にあり、他園の先生方と意見交換をする機会が減り、研修に参加しても講義形式が増えていた為、今回、ZOOMによるリモート形式だったにも関わらず、本当にたくさんの方と話をする機会があり、こんな活用方法があったのかと驚かされました。また、閉会式後の情報交換(オンライン懇親会)にも参加させて頂き、研修時間内では足りなかった他府県でのコロナ対応の話や、行事の見直しについて、園内研修等の方法等、冗談を交えながらリラックスした雰囲気の中で楽しく情報交換を行う事ができました。今日まで準備を進めて下さった大阪市私立幼稚園連合会の先生方、本当にありがとうございました。今回の学びを今後役に立てていきたいと思ひます。

(認定こども園大谷オアシス保育園 中里泰子)



令和3年度・第1回 札幌幼児教育セミナー

令和3年度第1回札幌幼児教育セミナーが令和3年9月13日にホテル札幌ガーデンパレスよりzoom配信で開催されました。「子どもと共に創造するカリキュラム」～改めて指導計画を見直してみよう～と題し、聖心女子大学より河邊貴子先生、北海道大学より川田学先生をお招きして講師をしていただきました。

はじめに、河邊先生より実践を通してのSOAPの視点での記録の取り方を教えて頂きました。また●こなしていくカリキュラムではなく子どもの興味に沿った遊びが大切●子どもと保育士のやり取りの質が記録に現れる●今と未来にどのような学び(援助)が必要か●幼児理解に基づき、計画的に環境を構成しなければならない●子ども、保育士の応答的な関りが大切である等たくさんのお話をいただきました。

実践発表は、認定こども園札幌大谷幼稚園(4歳児事例)、認定こども園ほしおきガーデン星の子幼稚園(5歳児事例)の記録の発表がありました。

両園の発表では、教師主導の保育から遊びを中心とした保育に移行の過程で、必然と記録内容も変化していき、「今日、子どもがやったこと」から「子どもの育ちの捉え、援助法」を書きたいと思うようになってきました。[様式][内容]について、捉え方、必要性、実用性の理解、どの場面をどの様に書き、明日の保育にどう繋げていくかが共通の課題としてありました。私(筆者)が発表者でしたので、感想を述べさせていただくと、自分の記録を振り返る機会

をいただき、徐々に「記録とは一体なんだろう…」と迷宮入りしましたが、「自分はこんなことを考えて保育しているんだ」「子どもの捉え、援助がまだまだ」など自身の保育を客観的に捉える有難い機会となりました。

実践発表後の川田先生の振り返り(途中から河邊先生との対談へ)では●記録は書かなければならないものではなく、書きたいと思うものにならなくてはいけない●計画通りに、どう子どもを動かすか等に意識が向くと、子ども理解の基本である「見る、聴く」の必要感が生まれにくい●主観性(願ひ、予想)を鍛えていくことが知識や教養となり、保育の血肉へととなっていく●計画=環境構成●書くことは自己的対話である●保育士は教養(自分の足でウロウロ旅をして可能性を考え蓄えていく)、知識が必要で自身の主観に繋がっていくなどの学び多いお話をいただきました。

記録は、明日の保育へと繋げてくれるものであることを忘れずに、書きたくなるような保育を目指していきたいです。



令和3年度・第1回 特別支援研修会

第1回特別支援研修会が、8月23日(月)にかでる2.7大ホールにて開催されました。札幌国際大学短期大学部幼児教育保育学科准教授・岡部 祐子先生を講師にお迎えし、「多様な育ちを包摂する保育とは～保育の基礎を問い直す～」という演題で行われました。

はじめに、様々な視点から障がい観を整理した後、身体的な障害よりも主に発達障害や知的障害を持つ子どもに対する実践的な支援の課題についてお話して頂きました。その中で、自分の当たり前がその子の当たり前ではないというように、自分の価値観を自分自身の中で絶えず問うていく事の大切さをお話されていました。

その後、実際の事例も交えてクラスづくりや環境、行事についてもお話して頂きましたが、困っているの



はその子自身だという事や、目の前の子どもを「知りたい！わかってほしい！（理解したい）」という教師の心持が重要だという基本の部分をご自身の子育て経験や様々な特別支援教育のご経験の中からお話して頂きました。

昨今、インクルーシブ（包括）ダイバーシティ（多様性）という言葉がたくさん聞かれるようになっていきます。特別な支援を必要とする子どもの数も増え、日々どのように子どもたちと関わっていけばよいのか、どのように保育を巻き込んでいくのか…という悩みを持たれている先生方もたくさんいらっしゃると思いますが、岡部先生の熱い思いが伝わるお話に、勇気づけられた先生方も多かったと思います。



令和3年度・第2回 特別支援研修会

～札幌特協・札幌私幼合同主催 幼保小交流事業 特別支援教育 幼保小連携研修～

『第2回特別支援教育幼保小連携研修会』が、10月27日(水)午後3時30分から開催され、参加者はYouTubeライブ配信でオンライン視聴となりました。コロナ対策を講じての研修形態が昨年度から行われています。特別支援教育について、理解を深めたいという熱い思いをひとつにし、たくさんの方々のご尽力により幼保小連携研修会を開催し、学ばせていただいたことに、心から感謝いたします。

今回は「幼保小の円滑な学びの接続を目指して」というテーマで、幼稚園や小学校の学びの実態や連携について、下記の諸先生方による発表と講演をいただきました。



記

1. 幼児期の教育の実践（白石幼稚園 滑川 史歩 教諭）
2. 幼保小連絡会による支援の接続（幼児教育センター 本間 真純 指導主事）
3. 小学校の支援体制（北海道教育大学教職大学院 小沼 豊 准教授）
4. 小学校の教育の実践
 - ①通常の学級での指導（北海道教育大学教職大学院 小沼 豊 准教授）
 - ②特別支援学級での指導（発寒西小学校ぼぷら学級 小竹 綾子 教諭）
5. まとめ（札幌特協 会長 佐藤 正行 西岡南小学校長）

授業や保育の公開形式ではありませんでしたが、登場する一人ひとりの子ども達の姿が、いきいきと浮かびあがりました。登場する子のもつパーソナリティを共有できたのは、講演してくださった諸先生方の、その子への深い思いと理解、そして丁寧なかかわりにおける実際だったからだと思います。幼稚園、小学校で取り組まれている特別支援教育の実際を学ばせていただきました。

育ちゆく子ども達の姿を次の環境へどのようにしてバトンを繋いでいったら良いのか？子ども達が主体的に自己を発揮しながら、学びに向かうことが可能となっていくよう幼保小連絡会を活用すること、連絡会だけでなく、日頃から近隣の園や学校同士での主体的な連携をもつことの大切さを再確認しました。

小学校の授業の中で、配慮や支援を必要とする子どものことを考えて整えられたユニバーサルデザインは、どの子どもにとっても生活しやすい環境になるそうです。支援の必要な子どもだけでなく、すべての子どもが、達成感や自信を積み重ねる経験ができる環境、全ての子どもにとって生活しやすい環境作りが、今後の学校教育、幼稚園、保育園にとって大事になってくるといってお話に深く共感しました。

子ども達一人ひとりの未来に希望と夢を託しながら、支援を繋いでいくことの大切さを改めて感じた研修会でした。



令和3年度・乳幼児研修会

認定こども園委員会が企画する乳幼児研修が10月22日（金）かでの2.7にてオンラインと併催で開催されました。今回は、「乳児の遊びと環境～1、2歳児を中心に」という演題で東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科教授 高山静子先生をお招きしました。



- ①乳幼児期の子どもの育ちを支える（教育×養護：ケア）とは？
- ②1・2歳児にとって遊びとは？
- ③子どもからはじめる環境構成
- ④環境の質を高めるヒント

上記4つの視点からわかりやすくお話して頂きましたが、環境を構成するためには発達・保育原理・子ども理解等非常に多くの専門知識が必要という先生の言葉に、当たり前ながら改めてハッとさせられました。また、実際にビデオで子どもの姿を見た後に、そ

の子に必要な環境構成は何か？という演習を通して、0・1・2歳児の発達を十分に理解する事が環境構成の手がかりになると実感した参加者も多かったようです。

子どもにとって豊かな環境は、1. 応答性が高い 2. 多様性がある 3. 見立てやすい（想像や創造のしやすさ） 4. 挑戦できる 5. 適度な刺激量がある（色・音・匂い等）とお話していましたが、今、子どもたちと一緒に過ごしている環境が目前の子どもたちに見合ったものなのか、改めて考える時間となりました。

そして、物的環境だけではなく子どもたちにとっては、私たち保育者も環境の一つです。私たちの関わりも子どもの成長を促す重要な要素となっています。0・1・2歳児の子どもたちの何気ない（名前の付かない）遊びの姿を認め、育ちを見とれる存在でありたいと思います。



令和3年度・リーダー“力”スキルアップ講座

令和3年度リーダー“力”スキルアップ講座が令和3年11月17日（水）にカナモトホール2階会議室にて行われました。初めに、札私幼 藪淳一会長から、「10年前に比べてリーダーの役割が膨れ上がってきているように感じます。その理由の一つに職員の人数が増えているという事があり、リーダーの役割が重要になってきています。今回の研修では悩みを出し合ったり、ヒントを得たりして、リーダーとしての喜びを感じる時間となって欲しいです。」とのお話を頂きました。講師には、学校法人ひじり学園認定こども園せんりひじり幼稚園理事長・園長 安達讓先生をお招きして、「保育の質を支えるマネジメント」という主題でご講演を頂きました。



前半は、コロナ禍でのカリキュラムマネジメントの重要性について教えて頂きました。何をやるのかというカリキュラムを立てていくのでは無く、“この活動で何が育っているのか”を考えていくこと、保育をきちんと伝えていくことの大切さについてお話されました。その後、グループに分かれてリーダーとしての困りや課題・悩みを出し合い、各グループから人材育成、

リーダーの育成の悩みなどが上げられましたが、中でも1番多かったのは、「職員間の思いの共有の難しさ」についてで、様々な保育観や考え方がある中で職員をまとめる事への課題を感じている先生が多いということが分かりました。

後半は、リーダーシップとマネジメントの違いについて様々な具体例を元にお話があり、先生方を信じて託す事の大切さや、組織の仕組みを作る重要性についてもじっくりと教えて頂きました。また、子どもを理解した保育の計画や人材育成、園内研修の組み立て方、子育て支援等、多くの事をお話下さいました。



全体を通して、せんりひじり幼稚園の素晴らしい事例や実際に行われている研修方法等をあげられ、どのお話も具体的で分かりやすく大いに学びにつながる研修内容でした。

最後に、リーダーの形はそれぞれであり、リーダーの先生もそれぞれの良さがあるということをお話され、他園の先生と悩みを分かち合い、明日からも学んだ事を活かして頑張ろうという活力となるととても充実した研修となりました。

札私幼スイーツ王子のおすすめスイーツ

令和3年度・第2回「今年のスイーツ マリトッツォ」

今年ブームになったスイーツと言えば【マリトッツォ】軽い食感のパンにたっぷりの生クリームをはさんだイタリアの伝統的なスイーツです。札幌でマリトッツォを買うならここ！というおすすめのお店を2軒紹介します。冬休みに是非足を運んでみて下さい。

パティスリージョネス

豊平区豊平6条5丁目1-5(本店)

王子の一言

おしゃれなケーキ屋さんのマリトッツォ。特にクリームが美味しく【ケーキ】のようなマリトッツォです。定番のプレーンの他、いちご・ショコラ・抹茶・ピスタチオ・レモンなど季節に応じて5種類のラインナップ。秋以降の新商品は、キャラメルバナナとあんバターです。※札幌駅のESTA地下1階にもお店がありますが、マリトッツォは本店しか販売してません。



札幌グランドホテル

王子の一言

1階の【ザ・ベーカリー&ペイストリー】と言うパンとスイーツのショップで買えます。ブリオッシュ生地のパンもクリームも、さすが一流ホテル！と言う味わい。ボリュームも満点で、特にクリーム好きにはたまりません。ティラミス・いちご・抹茶が定番。秋にはマロンが登場。1個700円と【ちょっと高め】のホテル価格ですが、自分へのご褒美やクリーム好きな方へのプレゼントにもおすすめです！

中央区北1条西4丁目



令和4年度・予算要望活動

今年度も各区の理事の皆様を通じて会員園からの要望やご意見を取りまとめ、「令和4年度札幌市への予算要望書」を作成し、11月29日(月)市役所へ持参し予算要望を行って来ました。当日は、札幌市私立幼稚園振興議員連盟の皆様同席のもと、敷会長そして札幌幼総務委員ならびに札幌幼P連会長と副会長で市役所に向向しました。

敷会長から町田副市長へ、加賀谷P連会長から檀田教育長へそれぞれ要望書を手渡しました。その後、丸谷副会長より要望趣旨を説明。毎年要望している特別支援事業の一園当たりの基準額の単価増額に加え、今回は対象となる教員の最大数(5人)の上限枠を撤廃することなども要望に織り交ぜ提出してまいりました。これら予算要望の結果に



についての詳しいことは、情報が入り次第改めてお知らせ致します。

- ※札幌幼予算要望
- ①特別支援教育事業 ②教材教具補助事業
 - ③新制度に係る事項 ④研修費等助成事業
 - ⑤人材確保事業 ⑥災害対策に係る事項
 - ⑦新型コロナウイルス感染症対策
- ※札幌幼PTA予算要望
- ①幼児教育・保育の向上のための更なる公費助成
 - ②PTA活動原資としての団体助成金増額



連台会日誌

札幌市私立幼稚園連合会の主な動き
(予定を含む)

- 10月6日(水) 認定こども園委員会(新善光寺)
 - 10月18日(月) 広報委員会(新善光寺)
 - 10月22日(金) 乳幼児研修会(かでる)
 - 10月25日(月) P連正副会長会議(ちえりあ)
 - 10月27日(水) 幼保小連携オンライン研修会
 - 10月29日(金) 振興委員会(札幌ガーデンパレス)
 - 11月2日(火) 研究委員会(札幌ガーデンパレス)
 - 11月8日(月) 振興プロジェクト委員会(エルプラザ)
 - 11月10日(水) 総務委員会・理事会(札幌ガーデンパレス)
 - 11月17日(水) リーダー“カ”スキルアップ講座(カナモトホール)
 - 11月19日(金) 政令協議会横浜運営委員会(オンライン・Zoom)
 - 11月24日(水) P連理事会(札幌ガーデンパレス)
 - 11月24日(水) 札幌市私立幼稚園振興議員連盟との懇談会(札幌市役所第一特別委員会会議室)
 - 11月26日(金) 広報委員会(新善光寺)
 - 11月29日(月) 札幌市への予算要望書手交式(札幌市役所市長会議室)
 - 11月30日(火) 復職・就職支援セミナー収録(札幌ガーデンパレス)
 - 12月9日(木) 札幌幼児教育セミナー(かでる)
 - 12月14日(火) 総務委員会、理事会、養成校懇談会(札幌ガーデンパレス)
- 令和4年**
- 1月11日(火) 初任段階における研修「理論・実践研修2」(かでる)
 - 1月12日(水) 初任段階における研修「理論・実践研修2」(かでる)

- 1月14日(金) 初任段階における研修「理論・実践研修3(2年次)」(かでる)
 - 1月17日(月) 永年勤続表彰、新年交礼会⇒**中止**
 - 1月25日(火) 総務委員会、理事会(札幌ガーデンパレス)
 - 2月2日(水) P連全体研修会(かでる)
 - 2月3日(木)~4日(金) 政令協議会横浜協議会(横浜ベイホテル東急)
 - 2月15日(火) 研究委員会(ちえりあ)
 - 2月25日(金) 広報委員会(新善光寺)
 - 2月28日(月) 総務委員会、理事会、設置者・園長研修会、臨時総会(札幌ガーデンパレス)
- 【令和4年度の主な予定】**
- 5月16日(月) 総務委員会、理事会、設置者・園長研修会、定時総会(札幌ガーデンパレス)
 - 9月22日(木) 教育研究大会「公開保育研究・分科会」(各公開園)
 - ~23日(金・祝) 教育研究大会「全体会」(カナモトホール)
 - 9月25日(日) 就職フェア(札幌ガーデンパレス)
 - 12月13日(火) 総務委員会、理事会、養成校懇談会(札幌ガーデンパレス)

- 令和5年**
- 1月23日(月) 永年勤続表彰、新年交礼会(札幌ガーデンパレス)
 - 2月27日(月) 総務委員会、理事会、設置者・園長研修会、臨時総会(札幌ガーデンパレス)



児童同士の悲しい事件がありました。本当のことは、当事者にしかわからない部分も多いと思いますが、幼児教育に携わるものとして、子どもの心の育つ過程に起こる様々な出来事に、社会全体がしっかりと向き合うべきということを改めて感じさせられる出来事のように思いました。ご近所の方々みんなで子どもを見守る(叱ることも含め子育て全体)社会であったのが、近年、他人の子を叱るのに勇気のある空気があります。また、何か問題が起こると「これは子どもではなく、育てた親の問題」と言われてしまう空気もあり、親の立場から言うところちょっとしたこと(公園で順番を守れない我が子など)

にもひやひやしてしまう世の中でもあります。もっと「社会全体で子育て」できれば、思春期の難しい子育てにも、悩みすぎず悲しい事件も起こりにくい世の中になるのか…などと考えていました。

我が子しか見えない親にならないために、これからの社会を作っていく子どもたちの土台を育てるために、「本人」も「親」も「先生」も「その他の大人たち」も、みんなであげ・吸収する幼児期でありたいものですね。

気づけばもう12月。各園の先生方は、今年もそれぞれのお立場で、苦労を重ねながらも、子どもたちのためにと一生懸命駆け抜けた1年だったのではないのでしょうか。新年が今より過ごしやすい状況になっていくことを祈りつつ、令和3年の広報誌を結ばせていただきます。皆様、どうぞよいお年をお迎えください。

(広報委員・山内 英玲子)